

359. 函數方程式 = 就イテ, VII

福原滿洲雄此大

§3. 前回ノ記号ヲソノマヨ使フコト=スル、即チ

$$(1) \quad \Phi(X) \equiv X - F(X) = 0$$

ノ解 X ノ集合ヲ M ,

$$(2) \quad \Phi(X) \equiv X - F(X) = \alpha$$

ガ解ヲ持ツ α ノ集合ヲ N , ϵ ツト一般=

$$(3) \quad \Phi^n(X) \equiv X - F_n(X) = 0$$

$$(4) \quad \Phi^n(X) \equiv X - F_n(X) = \alpha$$

= 関シテ同ジヤウ = M_n, N_n ヲ定義スル、空間 E ノ点 Z ハ

M_μ ノ点 X ト N_μ ノ点 Y ノ和トシテ表ハサレル: $Z = X + Y$ (定

理14)、ソコヲ

$$\bar{F}(Z) = F(Y), \quad \bar{\Phi}(Z) = Z - \bar{F}(Z)$$

$$\bar{\bar{F}}(Z) = F(X), \quad \bar{\bar{\Phi}}(Z) = Z - \bar{\bar{F}}(Z)$$

= 依テ $\bar{F}(Z)$, $\bar{\bar{F}}(Z)$ ヲ 定義スレバ 証明スル迄モナク

定理16(10) 「 $\bar{F}(Z)$, $\bar{\bar{F}}(Z)$ ハ 完全連続ナ一次函数デ
 $F(Z) = \bar{F}(Z) + \bar{\bar{F}}(Z)$, $\bar{F}(\bar{\bar{F}}(Z)) = \bar{\bar{F}}(\bar{F}(Z)) = 0$; M_μ ノ 点 X
 デハ $\bar{F}(X) = 0$, $\bar{\bar{F}}(X) = F(X)$; N_μ ノ 点 Y デハ $\bar{F}(Y) = F(Y)$,
 $\bar{\bar{F}}(Y) = 0$ デアル。」

計算ヲ 見ヤスク スル タメ F, Φ, \bar{F} 等ヲ 空間 E ノ 点ニ 施ス
 一次変換ヲ 表ハス 記号ト 考ヘ, E デ $E(X) = X$ ナル 変換ヲ 表
 ハス (E ガ 空間ヲ 表ハス 文字ト 同ジデ マヅイガ 混同ノ 恐レハ
 ナカラウト 思フ), 一般ニ A, B ガ ニツノ 一次変換ナルトキ
 $A+B$ デ $A(X)+B(X)$ ナル 変換ヲ, AB デ $A(B(X))$ ナル 変
 換ヲ 表ハス。

$$\bar{\Phi}\bar{\Phi} = (E - \bar{F})(E - \bar{\bar{F}}) = E - \bar{F} - \bar{\bar{F}} + \bar{F}\bar{\bar{F}} = E - F = \Phi$$

同ジマウ = $\bar{\bar{\Phi}}\bar{\Phi} = \Phi$ ヲ 得ル。

定理17(11) 「 $\Phi^n(X) = X$ ハ 常ニ 解ヲ 持ツ, $\bar{\bar{\Phi}}^n(X) = 0$ ノ
 解ト $\Phi^n(X) = 0$ ノ 解ト ハ 一致スル, $\bar{\bar{\Phi}}^n(X) = X$ ト $\Phi^n(X)$
 = X ト ハ 同時ニ 解ヲ 持ツカ 又ハ 同時ニ 解ヲ 持タナイ」

N_μ デ $\bar{\Phi} = \Phi$ デアルカテ $\bar{\bar{\Phi}}(N_\mu) = \Phi(N_\mu) = N_\mu$. 又
 M_μ デハ $\bar{\Phi}(X) = X$ 従ツテ $\bar{\bar{\Phi}}(M_\mu) = M_\mu$. 故ニ

$$\bar{\bar{\Phi}}(E) = \bar{\bar{\Phi}}(M_\mu) + \bar{\bar{\Phi}}(N_\mu) = M_\mu + N_\mu = E.$$

従ツテ $\bar{\bar{\Phi}}^n(E) = E$, コレハ $\bar{\bar{\Phi}}^n(X) = X$ ガ 常ニ 解ヲ 持ツコ

トヲ示ス。残ツタ部分ノ証明ニ大シタ困難ハナイト思フカラ省略スル。

§ 4. 前回 (VI) = 峯ゲタ定理ノ簡單ナ結果トシテ

$$(5) \quad \Phi_{\lambda}(X) \equiv X - \lambda F(X) = 0$$

ノ固有値、即チソレガ0デナイ解ヲ持ツマシナ入ノ値ガ孤立シテキルコト [12] ガ得ラレル。入ヲ含ム方程式ニ関スル定理ハ後デ纏メテ述ベル予定デアルカラ定理トシテハ後デ峯ゲルガ、コトテ証明ヲ述ベテ置ク方ガ分リガ早イト思フ。

簡單ノタメ $\lambda = 1$ ノ固有値トスル、 $\lambda \neq 1$ ノトキ (5) ノ満足スル解 X ノ取り (2) = 依テ x ノ定義スル。 (2), (5) カラ

$$X = (\lambda - 1)^{-1} \lambda x$$

ヲ得ル。 $x \in N$ デアルカラ $X \in N$ トナル。一般ニ $X \in N_n$ ナラバ $x \in N_{n+1}$ デアルカラ $X \in N_{n+1}$ トナル。故ニ $\lambda \neq 1$ ノトキ (5) ノ満足スル X ハ N_{μ} ノ点デナケレバナラナイ。

所ガ $\Phi(N_{\mu}) = N_{\mu}$ 。従ツテ $F(N_{\mu}) \subseteq N_{\mu}$ デアルカラ

(5) ノ空間 N_{μ} = 於ケル方程式ト考ヘルコトガ出来ル。ソノ

トキ $\lambda = 1$ ノ固有値デナイ、固有値ノ集合ガ閉デテキルコ

トハ直グニ余ルカラ正ノ数 δ ノ十分ニ小サク取レバ

$|\lambda - 1| < \delta$ ナルトキ (5) ノ満足スル N_{μ} ノ点ハ 0 = 限ル。

[13] ハ $\bar{\Phi}_{\lambda} \equiv X - \lambda \bar{F}(X) = 0$ ノ固有値 = 閉スルモノデア
ル。 [10], [11], [12], [13] カラ (5) ノ解ヲ $X = x - \lambda G(x, \lambda)$

ト書イタトキ $G(x, \lambda)$ ガ λ ノ有理型函数トナルコトガ証明

サレルコトハ Schauder が Über lineare, vollstetige

Funktionaloperationen (Studia Math., II, 1930)

ノ脚註(18)が述べテ居ル。コレ等ノ定理ノ別証明モ後が述べル積リデアアル。

尚序デアアルカラ $F(X)$ が完全連続デナクテモ $F^n(X)$ が完全連続トナルマウナ正ノ整数 n が取レルナラバ同様ノ結論ヲ得ルコトヲ注意シテ置ク。

§5. Riesz ノ定理デ未ダ残ツテキルノハ [4] がケデアアルガ、ソレヨリ次ニ述ベル定理ノ方が詳シイ。

$x_0 \in N$ トスレバ $\Phi(X) = x_0$ ハ解ヲ持ツ。ソノ一ツテ x_0 トスレバ $\Phi(X - X_0) = 0$ デアルカラ $X - X_0 \in M$ 即チ $X \in M(X_0)$ デアル。

逆ニ $M(X_0) =$ 属スル X ハ $\Phi(X) = x_0$ ヲ満足スル、故ニ N ノ点 $x =$ 商空間 E/M ノ点 $M(X) = X^*$ が一対一ニ對應スル、ソレヲ

$$\bar{\Phi}^*(x) \equiv x^* - G^*(x) = X^*$$

ト書ク (簡單ノタメ $M(x)$ ノ代リニ x^* ト書イタ)

定理 18. 「 $G^*(x)$ ハ N テ定義サレタ完全連続ナ一次函数デアアル」

此ノ証明ノ峠ハ $N =$ 含マレル有界ノ集合ノ $G^*(x) =$ ヨル像が緊ツテキルトイフ所ニアルト思フカラ、ソノ部分ガケヲ述ベヨウ、 $N =$ 属スル有界ノ点列 $\{x_j\}$ ヲ取ツタトキ先ツ $\{G^*(x_j)\}$ が有界トナルコトヲ証明スル。 $\{G^*(x_j)\}$ ノ代リ

$$= X_j^* = x_j^* - G^*(x_j)$$

が有界デアルコトヲ証明シテモ同ジデアル。若シソレが有界
 デナケレバ適當ナ部分列ヲ取ルコトニ依リ $\rho_j = \|X_j^*\| \rightarrow \infty$
 ト假定シテヨイ。M が有限ナ次元ヲ持ツカラ $\|X_j\| = \rho_j$ トシ
 テヨイ。 $X_j = \rho_j Y_j$ ト置ケバ $\Phi(X_j) = \alpha_j$ デアルカラ
 $\Phi(Y_j) = Y_j - F(Y_j) = \rho_j^{-1} \alpha_j$, $\|Y_j\| = \|Y_j^*\| = 1$
 ヲ得ル。故ニ適當ナ部分列ヲ取ルコトニヨリ $F(Y_j) \rightarrow Y$ ト假
 定スルコトが出来ル。 $\rho_j^{-1} \alpha_j \rightarrow 0$ デアルカラ $Y_j \rightarrow Y$ 、從
 ヲツテ $\Phi(Y) = Y - F(Y) = 0$ トナリ

$$Y \in M, \quad Z_j = X_j - \rho_j Y \in M(X_j)$$

ヲ得ル。 $Y_j = \rho_j^{-1} X_j \rightarrow Y$ デアルカラ j が十分ニ大キイ時
 $\|Y_j - Y\| < \frac{1}{2}$ 從ツテ $\|Z_j\| < \frac{1}{2} \rho_j$ トナリ矛盾デアル、故
 ニ X_j ハ有界デナケレバナラナイ。從ツテ $\{F(X_j)\}$ カラ收
 斂ナ部分列ヲ取出スコトが出来ル。ソレヲ $F(X_{j_k}) \rightarrow Y$ トス
 レバ、 $F(X_j) = X_j - \alpha_j$ デアルカラ $X_{j_k} - \alpha_{j_k} \rightarrow Y$ 、從ツテ
 $X_{j_k}^* - \alpha_{j_k}^* \rightarrow Y^*$ トナル。 $G^*(\alpha_j) = \alpha_j - X_j$ デアルカラ
 $G^*(\alpha_{j_k}) \rightarrow -Y^*$ トナル、故ニ $\{G^*(\alpha_j)\}$ が緊ツテキルコ
 トが証明サレタ。